

所蔵作品展「MOMATコレクション」

2017年5月27日[土]—2017年11月5日[日]

東京国立近代美術館(MOMAT, 千代田区)では、国内最大規模約**13,000点**の所蔵作品から約**200点**を厳選して紹介する**所蔵作品展「MOMAT コレクション」**を4階から2階で開催しています。

時宜に適ったテーマや切り口で、年に数回、ガラッと作品を入れ替える所蔵作品展「MOMAT コレクション」は、多様な作品をとおして**明治以降の日本美術の流れ**をたどることができる唯一の展示として、知る人ぞ知る充実の展覧会です。



土田麦僊《湯女(ゆな)》1918年 重要文化財(5/27-7/17展示)

■ 今期のみどころ

① MOMATコレクション

MOMATコレクションの中心は日本の近現代美術ですが、日本との影響関係を知る上で、西洋近代美術も欠かせません。今回はこれらをまとめて紹介します。また西洋と日本との関係といえば、パリで活躍した藤田嗣治や、アメリカで活躍した国吉康雄も特集します。ふたつの文化圏の間でアイデンティティを模索した彼らの足跡にご注目ください。さらに2階では、近年に収蔵したロバート・スミソンや河原温、赤瀬川原平の作品などを中心として、1960年代から70年代の美術の動向に光をあてます。

② ギャラリー4

今回のギャラリー4は、「彫刻を作る／語る／見る／聞く」 → → → 詳細は2ページへ

③ 東山魁夷特集

9月12日(火)～11月5日(日)には3階の2部屋を使って東山魁夷の特集を行います。当館では多数の東山作品を所蔵していますが、人気作家ゆえ毎年のように各地の展覧会に貸出しており、当館でまとめて展示する機会がなかなかありません。16点を紹介する今回は、東山芸術をじっくり堪能できる絶好の機会といえるでしょう。出品作品は、**《残照》《道》《秋露》《冬華》《白夜光》《白い朝》など16点**。この時期にあわせ、**杉山寧の《穹》、高山辰雄の《穹》を展示**するのもみどころです。この2点と東山魁夷の《冬華》は、1964(昭和39)年の日展会場で隣り合って展示され、「日展三山」の呼称とともに大いに注目を集めました。

なお、この東山魁夷特集については、**後日、より詳しいプレスリリースを配信**します。

②ギャラリー4 「彫刻を作る／語る／見る／聞く」

東京国立近代美術館では2005(平成17)年より、コレクション展に展示された作品の前で、活躍中のアーティスト本人に自作について語っていただく「アーティスト・トーク」を開催してきました。これまでのトークの記録映像の中から、今回は3人の彫刻家—黒川弘毅、鷺見和紀郎、戸谷成雄—を選び、当館コレクションの作品とあわせてご紹介します。1970年代から今日まで、彫刻表現の可能性を追求してきた彼らの問題意識やその成果を「見て」「聞いて」お楽しみいただけます。

黒川弘毅 Kurokawa Hirotake

1952年東京都生まれ。1979年東京造形大学美術学部彫刻専攻研究室修了。1991-92年、文化庁派遣在外研究員としてイタリア留学。1980年に最初の個展(楡の木画廊)。以来、国内外で発表多数。「もの派とポストもの派の展開」(1987年、西武美術館)、「現代美術への視点 形象のはざまに」(1992年、当館)、「光州ビエンナーレ」(2000年)などに出品。2016年平塚市美術館で個展。2005年10月14日に当館でアーティスト・トーク開催。



黒川弘毅《Golem No.8》1984-85年

鷺見和紀郎 Sumi Wakiro

1950年岐阜県生まれ。1972年三木富雄のアシスタントを務める。同年Bゼミ修了。1999-2000年、文化庁派遣在外研究員としてフランス留学。1972年に最初の個展(ギン画廊)。以来、国内外で発表多数。「現代美術への視点 形象のはざまに」(1992年、当館)、「ART TODAY 2000」(2000年、セゾン現代美術館)、「今日の作家XI 鷺見和紀郎・畠山直哉展」(2007年、神奈川県立近代美術館)などに出品。2006年11月10日に当館でアーティスト・トーク開催。



鷺見和紀郎《ダンス-4》2001年
撮影: 大谷一郎

戸谷成雄 Toya Shigeo

1947年長野県生まれ。1975年愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了。1974年に最初の個展(ときわ画廊)。以来、国内外で発表多数。「第43回ヴェネチア・ビエンナーレ」(1988年)、「プライマル・スピリット」(1990年、北米巡回)、「光州ビエンナーレ」(2000年)などに出品。広島市現代美術館(1995年)、愛知県美術館(2003年)などで個展。2004年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2011年6月5日に当館でアーティスト・トーク開催。

。



戸谷成雄《森の死》1989年
撮影: 菊山義浩

■今年新しくなったこと

① 展示替休館日を少なくします！

- ・竹橋まで来たのに休館でガッカリ——そんなことを減らしたくて、「MOMATコレクション」の展示替の仕組みを変えます。
- ・これまで年に4回あった、1週間にわたる**展示替休館日**が、**今年度はたった2回**になります。
- ・そのかわり、月曜の休館日を利用して、日本画、写真、素描などを中心に、展示室ごとにこまめに展示替していきます。
- ・**展示室によってはこれまでよりも展示替が多くなる**ので、訪れるたびに新たな発見が。「MOMATコレクション」の常連さんにもきつとご満足いただけるはずです。(展示替情報の詳細はHP掲載の出品リストをご覧ください)

展示替早見表(11月5日まで)

5/27

・1室 ハイライト

(日本画は3期に分けて展示替)



長谷川利行《カフェ・パウルスタ》1928年

・2室 明治の絵画

(日本画は3期に分けて展示替)

・3室 恋とクリームパン

・4室 インド・アジア スケッチ紀行

(3期に分けて全作品展示替)

・5室 「西洋」は絶対か？

・6室 藤田、Foujita、またの名をLéonard

・7室 国吉康雄

誰かがわたしの何かを破った

・11・12室

「1960-70年代の美術 | 近年の新収蔵作品から」



赤瀬川原平

《押収品・模型千円札Ⅲ 梱包作品(はさみ)》
1963年

・ギャラリー4

彫刻を作る／語る／見る／聞く



戸谷成雄《森の死》1989年

11/5

5/27

・9室 須田一政「風姿花伝」



須田一政
《「風姿花伝」より
秋田・西馬音内、盆踊り》
1976年

8/13

8/15

・9室 田村彰英「午後」



田村彰英《「午後」より》
1969年

11/5

5/27

・8室 アメリカの影



山下菊二
《射角キャンペーン5月26日》
1960年

9/10

9/12

・8室 東山魁夷特集



東山魁夷《道》1950年

11/5

5/27

・10室 国画創作協会の前と後



土田麦僊《湯女》1918年
重要文化財

7/17

7/19

・10室 筆と墨と個性と南画



富岡鉄斎
《小點大胆》1920年

9/10

9/12

・10室 秋の夜の月



中村大三郎《三井寺》1939年

11/5

② 多言語化をさらに一層すすめます！

- ・「MOMATコレクション」は、これまでも、展示室毎のテーマ解説や作品解説は和・英のバイリンガルでした。
- ・今年の2月18日からは、テーマ解説と作品タイトルの**4カ国語表記(和・英・中・韓)**をはじめました。
- ・そして、いよいよ5月27日からは、アプリケーションをダウンロードできる仕組みを導入し、「MOMATコレクション」作品解説の**4カ国語表記(和・英・中・韓)を完全実施**します。
- ・まずは中国語(簡体)と韓国語から。受付で、予め**中国語または韓国語をダウンロードしたタブレットを、300円でお貸し出し**します。
- ・今後、所蔵品ギャラリーにフリーWifi が通りましたら、お客様のスマートフォンやタブレットで、4カ国語をそれぞれご自由にダウンロードしていただけるようになります。所蔵品ギャラリーのフリーWifi は今年度中の開通を目指しています。
- ・外国からのお客様にも、国内のお客様にも、便利にお使いいただけるサービスです。

「MOMATコレクション」作品解説の多言語化アプリは、DNP大日本印刷にご協力いただいています。

(´σ`)? : そうはいつでも、MOMATコレクションの作品解説はいつもけっこう変わるし、数も多いから、4カ国語表記なんて一部だけでしょ？

<(美)> : いえ、「完全実施」です。新しく書き下ろした解説も、ぜんぶ翻訳しました。

ホ——(´Д`)—→ウ : ちなみに今回新しく書き下ろしたのは何点？全部で何点翻訳したの？

<(美)> : 11月までの展示替分も入れてですが、作品解説に限っても、書き下ろしは約40点、翻訳は約90点です。堅苦しくなく、わかりやすい解説がMOMATの信条です。でも美術がわかる人じゃないと、そのへんのニュアンスがうまく訳せませんよね。なので、中国語も韓国語も、東大や芸大で美術や美術史を学んでいるネイティブの留学生さんたち、全部で10人に、翻訳や校閲を分担してもらいました。

(´σ`)? : 中国語と韓国語のタブレットは当面、外国人観光客が対象ですよ？日本語と英語はどうなるの？

<(美)> : これまでどおりキャプションに掲示します。でも、ダウンロードできたら持ち帰ることだってできて、メモいらずで便利ですよ？日本語と英語については、所蔵品ギャラリーにフリーWifiが開通するまで、しばらくお待ちください。そのときにはもっと詳しいプレスリリースを配信します！

③ 夜間開館がおすすめ！

以前は金曜日だけだった夜8時までの夜間開館が、昨年9月から土曜日にも実施されていることは、案外まだ知られていないようです。週末の夜、ゆったりとした気分で名品と向き合う贅沢なひとときはいかがでしょうか。また1階の企画展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」展会期中(7月19日～10月29日)の金曜・土曜は、特別に夜9時まで開館します(入館は閉館30分前まで)。

なお、5月27日から観覧料の「5時から割引」(一般500円→300円 大学生250円→150円)がスタートします。

④ 観覧料がかわります。

東京国立近代美術館では、所蔵作品展「MOMATコレクション」の観覧料を5月27日から変更します(一般430円→500円 大学生130円→250円)。

何卒御理解を賜りますようお願いいたします。

■ 今回が新収蔵初出品となる作品

2014年以降に収蔵され、今回初めて「MOMATコレクション」展に出品される作品は次の通りです。

- ・村上華岳 《聖者の死》のための下絵 1918年（5月27日～7月17日に展示）
- ・山本丘人 五月雨 1929年（7月19日～9月10日に展示）
- ・川端龍子 ヤップ島スケッチ 椰子の島 1934年（5月27日～7月17日に展示）
- ・山下菊二 飼われたミミズク 1971年
- ・赤瀬川原平 患者の予言（ガラスの卵） 1962年（1994年再制作）
- ・赤瀬川原平 押収品・模型千円札皿楯包作品（はさみ） 1968年
- ・河原温 I MET 1968年
- ・河原温 I GOT UP 1974年
- ・河口龍夫 陸と海 1970年
- ・ロバート・スミッソン ノンサイト（デス・バレーの南、127号線上のリッグスとシルヴァー湖の間で採取された白亜）
1968年
など

■ 出品リスト

公式ホームページ中、所蔵作品展「MOMATコレクション」の、「見どころ」、「開催概要」のページに出品リストへのリンクがあります。展示替情報もこちらでチェックできます。

完全な出品リストは会期直前の公開になります。

<http://www.momat.go.jp/am/exhibition/>

■ 所蔵品ガイド

所蔵品ギャラリーでは、毎日、MOMATガイドスタッフが所蔵品ガイドを行っております。ガイドが一方向的に作品を解説するのではなく、参加者のみなさんからさまざまな見方や発言を引き出すそのスタイルは人気があり、リピーターが続出しています。

このたび、さらにガイドの時間が居心地良くなる「ギャラリーチェア」を、スウェーデンから直輸入しました。MoMAなど世界の美術館で使われている、LECTUS社の「Stockholm II」という折り畳み椅子です。この椅子に座って作品を見ると、じっくりと観察でき、文字通り「腰を据えて」鑑賞を深めることができる、すぐれもののツールです。ぜひ所蔵品ガイドでスペシャルな時間をご体験ください。（参加者数やその日の作品により、ギャラリーチェアを使用しないときもあります）

日時：休館日を除く毎日、14:00–15:00

場所：所蔵品ギャラリー（1Fエントランス集合）。要観覧券。参加は無料。

（メディア掲載事例）

週刊ダイヤモンド 2017年4月1日号、ビジネスタイムライン2017年5, 6, 7月号 (<http://businesstimeline.jp/>)など



■ 画像の貸出について

所蔵作品展「MOMATコレクション」に出品中の作品は、どれでも、**無料（広報扱い）**で画像を貸し出しています。

貸し出しの**条件**は次のとおりです。

1. 展覧会（所蔵作品展「MOMATコレクション」）の会期中に発行される記事であること。
2. 掲載時には展覧会（所蔵作品展「MOMATコレクション」）名と会期、展示中である旨を記してください。
3. 原則としてトリミングや文字載せはお断りします。
4. 著作権の保護期間内にある作品については、著作権者の許可をとってください。
ただし、このプレスリリースに掲載されている画像については、著作権の保護期間内にある作品もご利用になれます。
5. 画像の二次使用はできません。
6. 作品によっては、カラー画像が未撮影の場合もあります。ご了承ください。

展覧会概要

タイトル	所蔵作品展「MOMATコレクション」
会期	2017年5月27日[土]–2017年11月5日[日]
開館時間	10:00–17:00 金曜・土曜は20:00まで(入館は閉館30分前まで) 企画展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」会期中(7月19日～10月29日)の金曜・土曜は、21:00まで(入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(ただし7月17日、9月18日、10月9日は開館) 7月18日[火]、9月19日[火]、10月10日[火]
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館 本館 4-2階 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分
観覧料	一般500(400)円 大学生250(200)円 * 高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ) キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料 * ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 17時以降の入館は「MOMATコレクション」観覧料が一般300円、大学生150円になります。
無料観覧日	毎月第一日曜日および 11月3日[金・文化の日] (6月4日[日]、7月2日[日]、8月6日[日]、9月3日[日]、10月1日[日]、11月5日[日]) * 本展のみ(企画展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」は観覧料が必要です)
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル) http://www.momat.go.jp (ホームページ)
同時開催	企画展ギャラリー(1F) ◆「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」2017年7月19日[水]–2017年10月29日[日] 観覧料: 一般1,200(900)円 大学生800(500)円 5時から割引(金曜・土曜の17時以降): 一般1,000円 大学生700円 * 高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名は無料 * ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」の観覧料で、当日に限り所蔵作品展「MOMATコレクション」もご覧いただけます

プレス用イメージ・取材、展覧会内容など報道関係のお問合せ先:

美術課広報担当(岩田)

TEL: 03-3214-2565 / FAX: 03-3214-2576 e-mail: pr-f@momat.go.jp

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1